

特別研究期間においては、「成人女性の学習論研究—女性問題学習の研究を通して」をテーマとして、『女性問題学習の研究』（2006年）を執筆して以降の課題である国立市公民館女性問題学習実践の体系的包括的研究を進めるため、いくつかの課題の遂行を計画、実施した。

現在、学習論研究は、学習実践の展開に即した研究（学習主体の研究、学習組織の研究）と学習実践の展開を支える構造研究（職員やコーディネーターの力量形成の構造）の二重構造を明らかにする研究が不可欠であると考えている。

前期の、4月から7月までの間は、現地調査、資料収集、資料のデータベース化を進め、論文執筆の準備を進めるとともに、散逸寸前にある40年に及ぶ女性たちの学習の記録を可能な限りデータベースにしていく作業を進めた。なお、この研究のために、早稲田大学の特定課題の助成もあわせて受けることができ、それによって、より効率的に作業を進めることができた。

また、学習過程研究を一層進め、学習過程研究基盤を形成することを目指した日本社会教育学会のプロジェクト研究「専門職大学院構想と社会教育の役割」が進行中である。私はこれを学会理事として担当しつつ、社会教育職員などの対人援助の専門職の養成や研修、専門職大学院構想構築について研究を重ねた。

次に、夏季7月24日から8月28日の日程で、ニュージーランドのクライストチャーチに滞在。成人教育関連の施設、制度についての調査研究を行った。市中心部には、図書館、アートセンターやアートギャラリー、博物館、動物公園、広大な植物園、公園などが配置され、人々の文化的な生活を豊かにしていることがうかがえた。図書館の中でもロケーション、内部機能ともに評判の高い「ニューブライトン図書館」では、幼児を連れた親のためのコーナーが設けられていたり、伝統的な羊毛の編み物をする作業コーナーが設けられており、生活に密着しながら学習や教養を高めるための資源が整備されており、その実態と背後にある文化的風土に触れることができた。クライストチャーチ滞在中、カンタベリー大学（本学と大学間協定校）を訪問。成人教育関連についての教育条件について調査を行なうとともに、大学内の女性研究者（比率を上げる施策、学内保育施設等）をめぐる環境についても調査を行ない、早稲田大学女性研究者支援総合研究所にその成果を報告した。

9月以降の後期においては、論文の執筆を進めるとともに、対人援助専門職の力量形成のための機構、カリキュラム構成等についての研究を進めた。

11月には文学学術院の教育学研究関係者とともに、第2回「早稲田教育実践研究フォーラム」の開催を担い、1月には社会教育実践研究フォーラムの開催を担い、同時に、Session 2「コミュニティ支援専門職大学院コラボ—1年目の報告」の中で、「省察的实践に基づく専門職大学院の展望（1）早稲田大学文学研究科の試み」と題して報告を行なった。これについては引き続き、日本社会教育学会6月集会（2008年6月8日）において、「コミュニティ学習支援専門職大学院の展望—そのカリキュラムの構想と展望」と題して研究実

実践報告を依頼されて報告の予定である。

これら 1 年間の特別研究期間の研究活動を通して、当初の課題として設定した国立市公民館女性問題学習の研究については、その一部を下記においてまとめた。

「女性問題学習における社会教育職員の専門性—国立市女性問題学習・保育室活動を通して」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第 53 輯・第 1 分冊、2008 年 2 月)